ドキドキわくわく　あたらしい本　2024.2

えほん

ちゃうちゃう ちゃうねん

もりなつこ　作　はしもとえつよ　絵
文研出版

きょう、がっこうでな、おなじクラスのあっくんがいうてん。「ぼくゆいちゃんのことすきかも」わたしびっくりして、ひっくりかえったわ。

あっくんは、ほいくえんのときからおともだち。なかよしやけど、けんかもする。なんでわたしのことすきなん？

かようびにきいてみた。「ぶたばな、ブヒブヒがじょうずやから？」あっくんはわらった。「ちゃうちゃう、ちゃうねん」

雪のふしぎ

いしがきわたるえ　ふるかわよしのり かんしゅう
マイルスタッフ

あなたは、雪をしっていますか？いつ、みましたか？

あたりいちめん、すなだらけのさばく。ここでは、雪はふるのでしょうか。はんたいに、あたりいちめん、雪とこおりだらけのなんきょくでは、雪はふるのでしょうか。

しっているようでしらない、雪のふしぎが、たくさんしょうかいされています。

低学年

リパとみつばちの庭

福井さとこ　作・絵
のら書店

リパは、うでのいい庭師です。

ある日、リパの道具箱に、みつばちのむれがやってきて、そのまますみついてしまいました。そのみつばちは、おじいさんとくらす男の子、ミロが育てたはちでした。そこで、リパとミロはいっしょにみつばちのお世話をはじめます。

自然とくらすたのしさをおしえてくれるお話です。

図書館のぬいぐるみかします　1

シンシア・ロード　作　田中奈津子　訳
ステファニー・グラエギン　絵
ポプラ社

アイビーは図書館ではたらいているアンのにんぎょう。

ある日、アイビーは本のようにかりることができる図書館のぬいぐるみ〈ブック・フレンド（本のともだち）〉になりました。アイビーはアンといっしょにいたいので、だれにもかりられたくありません。

そんな時、ひとりの女の子に出会います。

ドキドキわくわく　新しい本　2024.2

中学年

ねこもおでかけ

朽木祥　作　高橋和枝　絵
講談社

飼い犬のダンとおさんぽをしていた信ちゃんは、公園ですてられていた子ねこをひろった。家へつれてかえると、動物が大すきなお母さんはおおよろこび。それに対してお父さんは、あまりさんせいしてくれない。

「トラノスケ」と名づけられたその子ねこは、犬のダンがやきもちをやくくらい、家族にかわいがられる。そして、信ちゃんは、時々トラノスケの心の声がきこえるようになる。

やがて、大きくなったトラノスケは、家から庭の外にまでででていき、夜になると帰ってくるという生活となる。 ところがある日、いつもは帰ってくるトラノスケが、家に帰ってこない。

あたしデイズ

いとうみく　作　平澤朋子　絵
新日本出版社

二週間後にある一泊二日の移動教室の班決め。もちろんあたしはガッコこと賀茂栄子とコマリこと小森まりと同じ班になるつもりだった。去年同じクラスになってから、いつもいっしょの三人グループのあたしたち。なのに、あたしは最後まで班が決まらず、同じくあぶれた石丸さんと白江さん、クラスの三軍女子と班を組むことになった。変人と陰キャのふたりと同じ班になるなんて……ショックだ。なんでコマリとガッコは急にあたしをムシするの？あたしなにかした？うらぎられた気持ちでいっぱい。楽しみにしていた移動教室も行きたくない……。

高学年以上

わたしに続く道

山本悦子　作　佐藤真紀子　絵
金の星社

5年生のリイマは、ケニア人の父と日本人の母を持つハーフだ。離婚して父はケニアに帰ってしまったが、母がよくうちに遊びに来てくれるシンちゃんと結婚することになった。家族がふえるのはうれしいが、見た目が外国人のリイマは「ねえねえ、ナニジン？」と話しかけられることも多い。自分は日本人だという確信がゆらぐことも多く、日本人の父ができることをうれしく思うけれど、複雑な思いでいた。

そんなある日、リイマによそよそしいシンちゃんのおかあさんが、ケニアに行くことになり、リイマにいっしょに行かないかとさそってくれた。

今日もピアノ・ピアーノ

有本綾　作　今日マチ子　絵
Gakken

小学6年生の海斗は放課後、駅前にある塾に行く道でピアノの音を聴いた。前の日にお母さんにゲーム機を没収されて、しずんでいた気持ちにさわやかな音色が響き、海斗は塾へ行く足を止めてピアノを探す。すると、駅の待合スペースに置かれた1台のピアノを弾いているおじいさんがいた。曲が終わっておじいさんに声をかけてみると、「このピアノはだれが弾いてもいいみたいだよ。」と教えてもらうが、塾が始まっている時間にきづき、その場を後にする。おじいさんにはきっとまた会える予感がして、海斗は胸がわくわくした。